

鉄の歴史博物館へようこそ

この博物館は、製鉄の地域史と発展を紹介している。伝統的な製鉄は、「たたら」と呼ばれる炉を使って行われる。たたらとは、木炭を燃やして砂鉄を溶かし、鋼鉄にするための土製の炉のことだ。博物館の3つの展示室では、原料、道具、模型、たたら製鉄で作られた完成品などを通して、製鉄の発展をたどることができる。

博物館の見学は、展示ホール1の奥側（入り口の向かい側）にあるシアターで、たたら製鉄の歴史に関する30分のドキュメンタリーから始まる。ドキュメンタリーは日本語または英語で、簡体字または韓国語の字幕がついている。

展示ホール1：製錬

1階の展示ケースには、菅谷たたら山内で最後に生産された鉄を使った製品や、金属製品の卸売に使われたものが展示されている。すぐそばの階段を上ると、2階には製鉄の道具や文化が展示されている。また、ある展示では雲南市のある地区の45カ所から発掘された鉄くずのサンプルが展示されており、この地域で製鉄が盛んであったことを物語っている。

展示ホール2と3：鍛冶と海運

博物館の他の2つの展示室は、裏庭を挟んで小さな橋の向こう側にある。これらの展示とジオラマは、低品位の鉄がどのように精錬され、日本各地に出荷されるようになったのかを示している。この地域の良質な砂鉄は、14世紀半ばには鉄と鋼鉄の重要な生産拠点となっていた。